

スペイン語「過去未来」再考：英語would, フランス語条件法現在との比較対照から見た特徴

山村, ひろみ
九州大学大学院言語文化研究院：教授

<https://hdl.handle.net/2324/4495651>

出版情報：2021-09-04
バージョン：
権利関係：

スペイン語「過去未来」再考：

英語 would, フランス語条件法現在との比較対照から見た特徴

山村ひろみ

1. はじめに

背景： スペイン語「過去未来」の機能に関する諸説の存在

- ・ 時制的観点からの説明 Cf. NGLE (2009)
- ・ モード的観点からの説明 Cf. Alarcos (1994), NGLE (2009)
- ・ エビデンシャルの観点からの説明 Cf. Vatrican (2006)

目的： スペイン語「過去未来」の機能を考察するにあたり、同形式と同じような働きをされると言われる他の言語の形式と比較対照し、スペイン語「過去未来」の振る舞いの特徴を確認し、それを踏まえた上で、同形式の機能を再検討する。

1.1. 方法

- ・ JSPS「現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究(課題番号 JP15K02482)」において作成された英語・スペイン語・フランス語・イタリア語・ブラジルポルトガル語・ポルトガルポルトガル語・ルーマニア語のパラレルコーパスのうち、英語・スペイン語・フランス語の部分を利用。
- ・ 同パラレルコーパスは、Agatha Christie の *Thirteen Problems* の英語および上記 6 つのロマンス語訳からなるものだが、本研究ではスペイン語の過去未来のあり様を、原本の英語に出現した would/should およびフランス語訳に出現した条件法現在の振る舞いと対照しながら明らかにする。

1.2. would, 条件法現在、過去未来概観

- 英語の would の一般的説明 (研究社『新英和大辞典』より)：

A [直説法過去]

1a [間接話法に用いて] (will の場合に準じる, will の過去形)

b ((文語)) [過去から見た未来]

2 [過去の意志・固執(中略)] どうしても...しようとした

3 [過去の習慣・反復] よく...したものだ、...するのだった

B [仮定法過去]

1 [条件文] (条件節中では「意志」を表し(中略); 主節では will の普通の用法に従う)

2 [推量] a [過去について]

b [時に関係なく推量の意を強めて]

3 欲する (wish (to))

4 [1 の条件節を省略して, 丁寧・遠慮を表す]

- フランス語の条件法現在の一般的説明(東郷雄二『フランス文法総まとめ』より)

a. 反事実用法：現在の事実とは逆のことを表す。

b. 不可能性の強調：条件法の反事実用法から「たとえどれほど試みてもそんなことはできない」

という不可能性を強調する用法が派生する。

- c. 文の意味内容の真実性についての責任回避：人から聞いたこと（伝聞）、確実ではないがそうではないかと思うこと（推量）、他人が言ったことを繰り返す（引用）など。
- d. 語気緩和、婉曲：vouloir, <aimer+不定詞>, devoir, pouvoir, falloir などの法助動詞を用いて要望や依頼を述べる時、語気を和らげるのに用いられる。
- e. 頭の中で想像したことを表す：条件法はときに接続法と同じように、事実でも反事実でもなく、頭の中で想像したことを表すために用いられることがある。
Moi, j'aimerais quelqu'un qui serait gentil, ... 私は優しい人がいいわ。
Toi, tu serais le voleur et moi, je serais l'agent de police.
君は泥棒の役で、僕は警官の役だ。
- f. quand, quand (bien) même, lors même que などの節で、「たとえ～しても」という非現実の譲歩を表す。書き言葉に限られる。
- g. 過去から見た未来：間接話法と自由間接話法で用いて、条件法現在では過去から見た未来を、条件法過去は過去から見た前未来を表す。

- スペイン語の過去未来の一般的説明(山田善郎監修『中級スペイン文法』より)
基本的用法：過去のある時点から見た以後の行為・状態（過去から見た未来）を表す。
派生的用法：過去から見た未来の用法以外にも多様な機能を発揮する。（中略）いずれの場合も、行為の実現については断定的な見方をしていない。

- ・ スペイン語の過去未来の派生的用法：
 - 1 過去の行為・状態の推測
 - 2 現在・未来の行為・状態の、暗に条件を含んだ推測
 - 3 現在・未来の行為・状態の婉曲的に表現
 - 4 現在・未来に関する非現実的条件文の帰結節で
 - 5 <過去未来, pero...> で、現在または過去の事柄についての譲歩
El año pasado prometería hacerlo, pero no lo hizo.
それをすると彼は去年約束したのだろうが、それをしなかった。
 - 6 不確かな情報の過去未来
 - 7 架空の人物設定・役割分担

2. 観察と結果

2.1. 各形式の対応関係

- 英語 would 239 例/should 71 例、フランス語条件法現在 211 例、スペイン語過去未来 211 例。
・ ここでは英語 would/should の頻度の高さが目立つ。このことは、英語の would/should が条件法と過去未来に対応しない用法を持っていることを示唆する。

2.1.1. 英語 would/should に対応するスペイン語の形式およびフランス語の形式

表 1：英語の would に対応する西語・仏語の形式

英語の would に対応する西語・仏語の形式		
	スペイン語	フランス語
cond.	94	91
cond. pc	3	17
imperfecto (imp.)	43 (iba a 7)	53

pretérito simple (ps.)	19	3
presente (pres.)	17	20
pretérito compuesto (pc.)	1	12
pluscuamperfecto (pcp.)	0	4
futuro (fut.)	0	7
futuro compuesto (fut. pc)	0	2
pasado de subjuntivo (ps sub.)	22	0
pcp de subjuntivo (pcp sub.)	13	0
pc de subjuntivo (pc sub.)	0	1
presente de subjuntivo (pres sub.)	5	1
inf.	3	8
なし	10	19
現在分詞	0	1
	239	239

表 2: 英語の should に対応する西語・仏語の形式

英語の should に対応する西語・仏語の形式		
	スペイン語	フランス語
cond.	27	32
cond. pc	0	6
imp.	14 (iba a 4)	10
ps.	2	0
pres.	6	4
pc.	0	0
pcp.	0	0
fut.	0	1
fut. pc	0	0
ps sub.	10	0
pcp sub.	1	0
pc sub.	0	0
pres sub.	3	4
inf.	1	6
なし	7	8
	71	71

- ・ 過去未来に対応したものは 94 例で全体の約 40%、条件法に対応したものは 91 例で約 38%でした。つまり、would と過去未来、条件法との対応はいずれも全体の半分以上。
- ・ 残りの対応形式については、スペイン語は、主に黄色でマークした半過去・単純過去、また、赤でマークした接続法過去、接続法過去完了に対応していた。この点については後述するが、フランス語との関係で興味深いのは、フランス語では接続法の過去系列がまったく確認されなかった点。
- ・ should についても would と大体同様のことが言える。

2.2.2. フランス語の条件法現在に対応する英語の形式およびスペイン語の形式

表 3: 仏語の cond. に対応する英語の形式

フランス語の cond. に対応する英語の形式		
would		121
present		42
	pres. can	6
	pres. may	2
	その他	34
simple past		26
	sp. can	8
	sp. may	8
	was	3
	was to inf.	3
	その他	4
must		6
had better		5
future		4
ought to		3
なし		2
現在分詞		1
should have+pp		1
		211

表 4: 仏語の cond. に対応するスペイン語の形式

フランス語の cond. に対応するスペイン語の形式		
cond.		101
presente.		39
ps sub.		16
pretérito imperfecto		13
	iba a	2
	その他	11
futuro		13
なし		12
pres sub.		8
pretérito simple		3
	deber	1
	poder	1
	ser capaz	1
cond. pc		2
pluscuamperfecto		2
infinitivo		1
ojalá		1
		211

- ・ 英語についてはその半分以上が would、スペイン語についてもその半分近くが過去未来に対応。
- ・ それ以外の形式については、まず、英語、スペイン語のいずれにおいても現在形に対応する場合が多い点特徴的。
- ・ 一方、条件法は過去形に対応することも少なくないが、英語の場合はその半分以上が may, can といった法助動詞の過去形、また、スペイン語については半過去形、接続法過去形がその主なもの。

2.2.3. スペイン語の過去未来に対応する英語の形式およびフランス語の形式

表 5: スペイン語の cond. に対応する英語の形式

スペイン語の cond. に対応する英語の形式	
would	121
simple past	43
	could 16 (podría 10)
	might 7 (podría 5)
	その他 20
なし	16
present	15
would have+pp	2
ought to	2
現在分詞	2
had better	1
	211

表 6: スペイン語の cond. に対応するフランス語の形式

スペイン語の cond. に対応するフランス語の形式	
cond.	101
cond. pc	6
imparfait	33
passé simple	2
passé composé	13
plus-que-parfait	4
présent	18
future	3
présent de subjonctif	2
infinitif	6
現在分詞	2
なし	21
	211

- ・ 英語に関しては、その半分以上が would に、また、フランス語についてもその約半分が条件法に対応。
- ・ 一方、過去未来に対応する形式で目を引くのは、英語、フランス語のいずれにおいてもいわゆる過去系列の形式に対応することが少なくないという点。英語では 43 例、全体の約 20%、フランス語では半過去までを含むと 58 例、全体の約 27.5%が過去未来に対応していた。

3. 考察

3.1. 英語 would, フランス語条件法現在, スペイン語過去未来に共通に見られる用法

- ・ 今回の観察で当該3形式が一致して見られたものは全部で71例。その用法は、まず、例(1)のように反実仮想文の帰結節に出現したもの、また、その拡大用法ともいえる例(2)のような「語気緩和用法」であった。

反事実用法 [現在・未来] :

- (1) 英: 'She said: "I shouldn't do it if I were you, my dear.
仏: - Elle m'a dit: «À votre place, je ne ferais pas ça, mon petit.
西: -Me dijo: «Yo de usted no lo haría, querida. (línea 4425)

語気緩和用法 [現在・未来] :

- (2) 英: I'd like to see him,' said Sir Henry.
仏: - J'aimerais le rencontrer, déclara sir Henry.
西: -Me gustaría verle. (4780)
- (3) 英: 'Oh! I should say fortyish.
仏: - Oh ! Je dirais la quarantaine.
西: - ¡Oh! Yo diría que unos cuarenta años. (3729)

- ・ さらに、当該3形式に共通した用法としては、例(4)のように、過去の主動詞の従属節に出現したもの、いわゆる「過去から見た未来」を表すものも少なくなかった。
- ・ この「過去から見た未来」の用法には例(5)のように、「語り」の文に特徴的な、主動詞を伴わない「自由間接話法」によるものもあった。

- (4) 英: I told him we would take all precautions, but he waved my words aside.
仏: Je l'assurai que nous prendrions les précautions nécessaires, mais d'un geste il me fit taire.
西: Le dije que tomaríamos toda clase de precauciones, pero no me dejó insistir. (2796)

(5)

- 英: Mary's room was two doors off. The undertakers wouldn't come till after dark - he counted on that. No one would notice.
仏: Celle de Mary était deux portes plus loin. Sanders comptait sur le fait que les entrepreneurs de pompes funèbres ne viendraient pas chercher le corps avant la nuit. Personne ne le remarquerait.
西: La de Mary estaba dos puertas más allá, y los de la funeraria no irían a recoger el cadáver hasta después de que anocheciera. Él contaba con ello. Nadie lo notaría. (3536)

3.2. 英語 would, フランス語条件法現在とスペイン語過去未来

3.2.1. 英語 would とスペイン語過去未来

- ・ 先にも述べたように、過去未来は would 全体の約40%にしか対応していない。それでは残りの60%はどのような形式に対応していたかと言うと、表1の黄色でマークした部分に注目されたい。

表 1：英語の would に対応する西語・仏語の形式

英語の would に対応する西語・仏語の形式		
	スペイン語	フランス語
cond.	94	91
cond. pc	3	17
imperfecto (imp.)	43 (iba a 7)	53
pretérito simple (ps.)	19	3
presente (pres.)	17	20
pretérito compuesto (pc.)	1	12
pluscuamperfecto (pcp.)	0	4
futuro (fut.)	0	7
futuro compuesto (fut. pc)	0	2
pasado de subjuntivo (ps sub.)	22	0
pcp de subjuntivo (pcp sub.)	13	0

- ・ スペイン語の半過去に対応したものは 43 例あるが、これは would 全体の約 18%に相当。その具体例は例(6)のようなもの。この would は「過去の習慣・反復」を表すことから、スペイン語では線過去に対応したと考えられる。

(6)

英： The insurance companies became suspicious. That is really how they came to catch him. He would come to some quiet seaside place with his new wife, then the other woman would turn up and they would all go bathing together. Then the wife would be murdered and Carol would put on her clothes and go back in the boat with him. Then they would leave the place, wherever it was, after inquiring for the supposed Carol and when they got outside the village Carol would hastily change back into her own flamboyant clothes and her vivid make-up and would go back there and drive off in her own car.

西： Así es cómo lo atraparon. Las compañías de seguros empezaron a sospechar. *Acudía* a algún lugar de veraneo con su nueva esposa, allí *se encontraba* con la otra mujer y se iban a bañar juntos. Entonces *asesinaban* a la esposa, y Carol, poniéndose sus ropas, *regresaba* en el bote con él. Más tarde *abandonaban* el lugar, después de preguntar por la supuesta Carol y, al llegar a las afueras del pueblo, esta *regresaba* con sus ropas llamativas y su extremado maquillaje para marcharse de allí en su propio coche. (1151-1154)

- ・ 一方、would は、例(7)(8)のように、スペイン語の単純過去に対応することもある。これらの would は「過去の意志・固執」を表したものと理解される。

(7)

英： ‘The question was: Hadn’t the blue primrose always been there? That was George’s suggestion and the nurse’s. But Mrs Pritchard wouldn’t have it at any price.

西： -La cuestión era: ¿había estado siempre allí? Eso fue lo que sugirieron George y la enfermera, pero la señora Pritchard *no se dejó convencer de ninguna manera*. (1991)

(8)

英: His wife wanted to leave the house, and he wouldn't let her.

西: Su esposa deseaba abandonar la casa y él *no se lo **permitió***. (2038)

- ・ さらに **would** の約 15%はスペイン語の接続法過去あるいは接続法過去完了に対応していたが、それらは例(9)(10)(11)のように、主動詞にスペイン語の接続法を要求するような語句が現れていたり、例(12)のように、先行詞にスペイン語の接続法を要求するものが現れていたり、例(13)のように、非現実の条件文の帰結節に現れた **would** というものだった。

(9)

英: **I had hoped** very much that the attachment would not come to anything, for Mr Denman was a man of very violent temper –not the kind of man who would be patient with Mabel's foible- and I also learned that there was insanity in his family.

西: **Yo había esperado** que aquella boda *no llegara a celebrarse*, porque el tal Denman parecía un hombre de temperamento violento y no la clase de persona que hubiera sabido tener paciencia con las debilidades de Mabel. También porque supe que en su familia hubo algunos casos de locura. (1513)

(10)

英: **They were afraid** it would upset me.

西: **Temían** que me *afectara*. (1777)

(11)

英: I never had thought it **likely** that Geoffrey Denman would commit suicide.

西: Nunca consideré muy **probable** que Geoffrey Denman *se hubiera suicidado*. (1751)

(12)

英: '**Nothing** that would interest you, Sir Henry.

西: **-Nada** que *podiera interesarle*, sir Henry. (3139)

(13)

英: That's the thing that would stare you in the face, **if** there weren't such a lot of red herrings to draw you off the trail - including the suggestion of foul play and remorse.

西: Eso es lo que *hubiera saltado* más a la vista **de no ser por** la cantidad de pistas falsas puestas para apartarlos de la verdadera, incluyendo el detalle de la comedia del arrepentimiento: (...) (2633)

3.2.2. フランス語条件法現在とスペイン語過去未来

- ・ 表 4 が示すように、条件法の約半分は過去未来に対応しているが、今注目したいのは、赤字でマークした部分。つまり、条件法はスペイン語においては全体の約 18.5%、英語においては全体の約 19.4%がその現在形に対応したという事実。その具体例は例(14)(15)(16)(17)。

表 3: 仏語の cond. に対応する英語の形式

フランス語の cond. に対応する英語の形式		
would		121
present		42
	pres. can	6
	pres. may	2
	その他	34
simple past		26
	sp. can	8
	sp. may	8
	was	3
	was to inf.	3
	その他	4

表 4: 仏語の cond. に対応するスペイン語の形式

フランス語の cond. に対応するスペイン語の形式		
cond.		101
presente.		39
ps sub.		16
pretérito imperfecto		13
	iba a	2
	その他	11
futuro		13
なし		12
pres sub.		8

(14)

仏: Il avait des manières charmantes - élégantes serait le mot juste.

西: De modales refinados... cortés, sí, creo que esa *es* la palabra que mejor lo definiría.

英: Very charming manners - courtly - that's the word that describes him best. (3694)

(15)

仏: Je n'ai jamais vu un homme plus ensorcelé par un bambin et je ne saurais vous décrire son désespoir (...)

西: Nunca he visto un hombre más dominado por una criatura, y no *puedo* describir su pena y (...)

英: I have never seen a man more completely wrapped up in a child, and I *cannot* describe to you his grief and (...) (1197)

(16)

仏: - Qu'y a-t-il, tante Jane? Ne pourrions-nous partager votre gaieté ? demanda Raymond.

西: -¿Qué ocurre, tía Jane? ¿*Podemos* saber de qué te ríes? - preguntó Raymond.

英: 'What is the matter, Aunt Jane? *Can*'t we share the joke?' said Raymond. (1391)

(17)

仏: je pense que nous ne devrions pas exclure la possibilité de quelque chose de louche.

西: Creo que no *debemos* descartar la posibilidad de que su muerte fuese violenta, (...)

英: We **must** not, I think, exclude the possibility of foul play. (1107)

- 一方、条件法がスペイン語の接続法に対応することもある。例(18)(19)がそれである。これらの例文では先行詞にスペイン語の接続法を要求する語が出現しているが、条件法はスペイン語の接続法現在に対応している。それに対して、例(20)は単文に現れた条件法が、単文の接続法現在に対応した例である。

(18)

仏: Cela ne vous rappelle pas **quelque chose**, ou **quelqu'un**, qui pourrait nous éclairer ? Ne pouvez-vous rien faire pour aider deux jeunes gens sans défense qui ne demandent qu'à être heureux?

西: ¿No le recuerda **a alguien** o **algo** que le **haga ver** este asunto muy claro? ¿No puede hacer algo por ayudar a dos jóvenes desesperados que desean ser felices?

英: Doesn't it remind you of something or someone that **makes** everything perfectly **plain**? Can't you do something to help two helpless young people who want to be happy?' (2996)

(19)

仏: **Il n'y a pas une âme**, ici, qui accepterait de m'adresser la parole, maintenant.

西: Ahora **no hay una sola persona** aquí que **quiera** dirigirme la palabra.

英: There is not a soul in the place who **will speak** to me now. (1538)

(20)

仏: Cela pourrait bien être Georgey, quoique cela ressemble plus à Georgina.

西: Tal vez el nombre **sea** Georgey y no Georgine, aunque me inclino más bien por lo contrario.

英: 'It **might be** Georgey; but it certainly looks more like Georgina. (2912)

- さらに、条件法は、例(21)(22)のように、スペイン語の接続法過去に対応することもある。これらの例では主文が過去形かつスペイン語の接続法を要求する語句であるため、スペイン語では接続法過去形が出現しているのだが、フランス語では先に見たスペイン語接続法現在とこのスペイン語接続法過去形のいずれもが同じ条件法現在で表されている点が異なる。→フランス語条件法現在における時制的機能の希薄化（消失）？

(21)

仏: Je **ne pouvais pas imaginer** qu'elle prendrait les choses comme ça.

西: **Nunca creí** que se lo **tomara** de esa manera.

英: I never dreamt she'd **take** it that way.' (4847)

(22)

仏: Elle a pu glisser ce papier parmi ceux de M. Clode, **avec l'idée** qu'on le retrouverait après sa mort.

西: Quizá lo colocara entre los papeles de Clode **con la esperanza de** que **fuese hallado** después de su muerte.

英: Possibly she would place it among Mr Clode's papers where she thought it **would be found** after his death.

(1439)

3.3. スペイン語過去未来と英語 would, フランス語条件法現在

- まず、青でマークされた部分を見られたい。過去未来に対応する英語の 120 例、全体の約 57%

は would、同形式に対応するフランス語の 101 例、全体の約 48%は条件法に対応する。しかし、注目すべきは黄色でマークされた部分。それらは、過去未来が英語の過去、フランス語の単純過去、複合過去、大過去（スペイン語の過去完了）、条件法過去に対応したものである。例は(23)(24)(25)。

- ・ このように、英語の過去、フランス語の過去系列の形式に対応する過去未来の多くは例(25)のように **supongo (creo etc.) que** の従属節に出現していた点は注目すべき。

表 5: スペイン語の cond. に対応する英語の形式

スペイン語の cond. に対応する英語の形式		
would		121
simple past		43
	could	16 (podría 10)
	might	7 (podría 5)
	その他	20

表 6: スペイン語の cond. に対応するフランス語の形式

スペイン語の cond. に対応するフランス語の形式	
cond.	101
cond. pc	6
imparfait	33
passé simple	2
passé composé	13
plus-que-parfait	4

(23)

西 : Luego, cuando verificaron sus sospechas, debieron de enviar su mensaje al espía que tenían en su casa.

El mensaje que decía: "Mata". -¡Qué horror! -dijo Jane con un estremecimiento. -Pero ¿cómo llegaría el mensaje? Ese es el punto que traté de aclarar como única esperanza de resolver el misterio. (2849)

英 : And then, all doubts set aside, they must have sent their message to the spy within the gates - the message that said, "Kill." "How nasty!" said Jane Helier, and shuddered. But how **did** the message **come**? That was the point I tried to elucidate - the one hope of solving my problem. [**simple past**]

仏 : Une fois sûrs de leur fait, ils ont dû envoyer leur message à l'espion en place, le message disant : « Tuez. » - Quelle horreur !s'exclama Jane en frissonnant. - Mais par quel moyen lui **était parvenu** ce message?

Ce fut le point que je tentai d'élucider, le seul espoir de résoudre l'énigme. [**plus-que-parfait**]

(この例文は、事前に問題の家に忍びこんでいたスパイには殺人の指令のメッセージが届いたに違いないのだが、一体どうやってそのメッセージが届いたのか、という質問を表した英語の過去がスペイン語の過去未来に対応したものの。)

(24)

西 : -Bueno, no creo que aquello la afectara personalmente - replicó el médico con cierta reserva.

-¿No engordaría por casualidad? -insistió la señorita Marple. (2470)

英 : 'Well, I don't know that it affected her appearance at all,' he said cautiously. 'She **didn't**, for instance, **grow fatter**?' asked Miss Marple. [**simple past**]

仏 : -Ma foi, elle n'avait pas l'air changée le moins du monde, répondit-il prudemment. - Elle **n'aurait pas grossi**, par hasard ? insista miss Marple. [**conditionnel passé**]

(この例文は、問題の女性に会った医師に対して Miss Marple が発した「そのとき彼女は以前より太ってなかったか」という質問に現れた英語の過去がスペイン語の過去未来に対応したもの。フランス語では条件法が対応しているが、条件法現在ではなく条件法過去（つまり、スペイン語の過去未来完了）になっている点でスペイン語とは異なっている。)

(25)

西： Su muerte fue atribuida a envenenamiento por ingestión de alimentos en mal estado, se extendió el certificado correspondiente y la víctima fue enterrada . Pero las cosas no acabaron ahí. -**Supongo que empezarian** las habladurías, como suele ocurrir –manifestó la señorita Marple. (91)

英： Death was considered to be due to ptomaine poisoning, a certificate was given to that effect, and the victim was duly buried. But things did not rest at that. Miss Marple nodded her head. ‘There *was* talk, I suppose,’ she said, ‘there usually is.’ [**simple past**]

仏： Le décès fut attribué à un empoisonnement par la ptomaïne, le certificat fut établi en conséquence, et la victime fut enterrée. Toutefois, les choses n'en restèrent pas là. Miss Marple hochla la tête. - On **a commencé** à jaser, je suppose. C'est ce qui se passe d'habitude. [**passé composé**]

(この例文は、「ある人物の死はプトマインの毒に因るものと結論づけられ、その死体も埋葬されたのだが、そこで話が終わることはなかった」という相手の発言に対して、Miss Marple が「よくあるように、噂が立ったんでしょ？」と口を挟む場面。)

● 英語の simple past, フランス語の passé simple, passé composé, plus-que-parfait, conditionnel passé に対応するスペイン語過去未来の特徴

➤ 過去の「推量」と解釈されるが、それが言及する事態は **perfectivo** である。つまり、従来、過去未来に付与されてきた過去の「推量」は、例(26)のように、半過去に置き換え可能な事態の「推量」であったが、例(23)から(25)の過去未来が示す「推量」は単純過去に置き換えられるべき事態に対するものということである。

(26)

西： -¿Qué edad **tendría**? (=tenía+推量)

英： ‘What sort of aged woman?’

仏： - Dans quelle tranche d'âge? (3728)

➤ 例(23)から例(25)の過去未来は、例(27)のように、「語り」に特徴的な「ある過去時の後に継起的に起こる事態」を表す過去未来とも異なるように見える。なぜならば、先にも指摘したように、その多くが **supongo que** という主文に導かれた従属節中に現れているから。

(27)

西： Ya sabes que la gente cambia las ruedas, a menudo lo he visto hacer y, claro, pudieron coger la rueda de la camioneta de Kelvin, sacarla por la puerta pequeña del garaje y salir con ella al callejón. Allí la **colocarían** en la camioneta del señor Newman y **bajarían** hasta la playa, **cargarían** el oro y **volverían** a entrar por el otro acceso al pueblo. Luego volvieron a colocar la rueda en la camioneta del señor Kelvin, me imagino, mientras alguien maniataba al señor Newton y lo arrojaba a la zanja. (929)

英： People change a wheel, you know -I have often seen them doing it- and, of course, they **could** take a wheel off Kelvin's lorry and take it out through the small door into the alley and **put it** on to Mr Newman's lorry and **take** the lorry out of one gate down to the beach, **fill it up** with the gold and **bring it up** through the other gate, and then they must have taken the wheel back and put it back on Mr Kelvin's

lorry while, I suppose, someone else was tying up Mr Newman in a ditch.

仏 : On peut changer les roues, vous savez - j'ai souvent vu des gens faire ça- et bien sûr ils *pouvaient* enlever une roue du camion de Kelvin, la sortir par la petite porte dans l'allée, *la mettre* sur le camion de Newman, *amener* le camion jusqu'à la plage par la porte principale, *le charger* d'or et *remonter* par l'autre porte. Après, ils ont dû rapporter la roue, la remettre sur le camion de Kelvin, tandis que quelqu'un d'autre, je suppose, ligotait M. Newman dans le fossé.

(第3章 Lingotes de oro で、犯人が金塊を運んだ手順について述べている場面)

- 単純過去に置き換え可能な過去未来の存在は、これまでも指摘されてきたが、それを過去未来の機能の観点からどのように解釈されるかについての詳しい説明はない。数少ない説明は以下のようなものである。

(28)

a. Serán las cuatro > Probablemente son las cuatro. 形態素 : -r-

b. Moriría el año pasado > Probablemente murió al año pasado.

(Rojo y Veiga 1999:2914, Rodríguez Rosique 2019:36 からの引用)

(29)

“The conditional is used for suppositions and approximations about the past in the same way as the future is for the present: (中略)” (But & Benjamin 2000 :217, 下線は山村)

- ・ 見つけることのできた数少ない説明を見ると、(28)(29)にあるように、当該の過去未来は現在の「推量」を表す未来と並行的なものと解釈されていることが分かる。しかし、山村(2004), Yamamura (2021)によれば、未来が示す現在の「推量」は発話時と同時的關係にある事態にし適用されないことが分かっている。状態的事態
- ・ それに対し、過去未来が示す過去の「推量」は次の例が示すように、既定の過去時と同時的關係にある事態の「推量」(30a)と発話時に対して前時的關係にある事態の「推量」(30b)を表すことができる。したがって、過去未来の「推量」を単に未来の「推量」と同じように扱うことにはあまり妥当性があるとは思えない。

(30)

a. Cuando llegué a casa, ya serían más de las ocho ≙ probablemente eran (imp.) más de las ocho.

既定の過去時と同時的關係にある事態の「推量」

b. Supongo que los quemaría ≙ probablemente los quemé (ps.) .

発話時と前時的關係にある事態の「推量」

- そこで本発表では、山村(2020)に従い、未来の「推量」と過去未来の「推量」をそれぞれ次のように考えることにした。
- まず、Ya serán las ocho のように現在の「推量」を表す未来は Rojo & Veiga (1999)と同じく、当該事態の発話時 (O)に対する同時性が、ある未来時(F)に対する同時性に転移されることによって引き起こされる効果だと考える。

(31)

Ya serán las ocho. ⇐ Probablemente ya son las ocho.

Ya son las ocho: ① **OoV** ([ya ser las ocho]の発話時に対する同時性)



[ya ser las ocho]の発話時に対する同時性が、ある未来時(F)に対する同時性へ転移

② **FoV**[推量 (可能性)]

FoV は未来時 (mundo posible 可能世界)に対する事態の同時性を示す。

- ・ (31)によれば、Ya son las ocho は記号①が示すように、 [ya ser las ocho]という命題が発話時(O)に対して同時的関係にあることを表すが、この基準時が故意に発話時(O)からある未来時(F)に転移されると、そこに「推量」という意味合いが加えられることになる。なぜ「推量」が加えられるかと言えば、未来時は「現実世界」とは異なる「可能世界」だから。

- 未来の「推量」と同じような説明が(30a)で見た既定の過去時と同時的関係にある事態の「推量」を表す過去未来についても適用される。(32)を見られたい。

(32)

Ya serían las ocho. ⇐ Probablemente ya eran las ocho.

Ya eran(imp.) las ocho: ① **PoV** ([ya ser las ocho]の既定の過去時(P)に対する同時性)



[ya ser las ocho]の既定の過去時に対する同時性が、ある既定の過去時から見た未来時(PF)に対する同時性へ転移

② **PFoV**[推量(可能性)]

PFoV はある既定の過去時から見た未来時 (mundo posible 可能世界)に対する事態の同時性を示す。

- ・ (32)によれば、Ya eran las ocho は、記号①が示すように、 [ya ser las ocho]という命題が既定の過去時(P)に対して同時的関係にあることを表すが、この基準時が故意に既定の過去時(P)から、ある既定の過去時から見た未来時(PF)に転移されると、そこに「推量」という意味合いが加えられることになる。「推量」が加えられることになる理由は、ある既定の過去時から見た未来時は「現実世界」とは異なる「可能世界」と見なされうるから。

- 一方、現在の「推量」を示す未来にはなかった用法、つまり、過去に生起した **perfectivo** な事態の「推量」については、今のところ(33)のように考えている。

(33)

a. Supongo que los quemaría. ⇐ Probablemente los quemé.

b. los quemé: ① **O**(~Prop.[yo quemarlos]&Prop.[yo quemarlos])^{ant.}

当該事態([yo quemarlos])の発話時以前における生起



[yo quemarlos]の発話時以前における生起がある既定の過去時から見た未来時(PF) **以前/以後/O** における生起へ転移

② **PF**(~Prop.[yo quemarlos]&Prop.[yo quemarlos])[推量 (可能性)]

PF(~Prop. & Prop.) **¡ant.?,pos.?,O?** は、ある既定の過去時から見た未来時 (mundo posible 可能世界)における事態の生起を示す。

- (33)によれば、(33b)が示すように、単純過去を用いた **los quemé** は記号①が示すように、当該事態の発話時以前における生起を表すが、今問題となる過去未来が示す **perfectivo** な事態の「推量」は、この単純過去の基準時である発話時が、記号②が示すように、故意にある既定の過去時から見た未来時(PF)に転移された結果と解釈する。先に見たように、このある既定の過去時から見た未来時は「可能世界」なので、その結果、当該文には「推量」という意味合いが加えられることになる。
- 問題点：過去未来の「推量」用法と過去未来の基本的用法との関係はどのようなものか、どのように示されるものか。

1. 未来形の基本的用法((34)(35))とその「推量」用法(36)の関係

(34) **María vendrá.** マリアは来る。

O(~Prop.[María venir]&Prop.[María venir])^{pos.}

=「María venir」という命題が発話時(**O**)以後(pos[terioridad])に生起(当該事態の未成立(~Prop.)から成立(Prop.)への変化(&))。

(35) **Cuando llegue María, yo estaré en casa.** マリアが到着したとき、私は家にいるだろう。

F(既定の未来時=cuando llegue María)**oV**([yo estar en casa])

=「マリアが到着する」という未来時(**F**)に対して命題[yo estar en casa]が同時的關係(**oV**)を示す。
 なお、基準時に対する命題の同時的關係は常に現在形(yo estoy en casa)で示される。

(36)

Ya serán las ocho. ≙ Probablemente ya son las ocho.

Ya son las ocho: ① **OoV** ([ya ser las ocho]の発話時に対する同時性)



[ya ser las ocho]の発話時に対する同時性が、ある未来時(F)に対する同時性へ転移

② **FoV**[推量 (可能性)]

FoV は未来時 (mundo posible 可能世界)に対する事態の同時性を示す。

2. 過去未来形の基本的用法((37)(38))とその「推量」用法(39)(40)の関係

(37) **José dijo que María vendría.** マリアは来るとホセは言った。

P(~Prop.[María venir]&Prop.[María venir])^{pos.}

=「María venir」という命題が既定の過去時(P)以後(O (~Prop.&Prop.)^{pos.})に成立。

(38) **José dijo que cuando llegara María él estaría en casa.**

ホセはマリアが到着したとき家にいるだろうと言った。

PF(ある過去時から見た既定の未来時=cuando llegara María)**oV**([él estar en casa])

=ホセの発言時(P)から見た「マリアが到着する」という未来時(PF)に対して命題[yo estar en casa]は同時的關係(**oV**)を示す。

(39)

Ya serían las ocho. ≙ Probablemente ya eran las ocho.

Ya eran las ocho: ① **PoV** ([ya ser las ocho]の既定の過去時(P)に対する同時性)



[ya ser las ocho]の既定の過去時に対する同時性が、ある既定の過去時から見た未来時(PF)に対する同時性へ転移

② **PFoV**[推量(可能性)]

PFoV はある既定の過去時から見た未来時 (mundo posible 可能世界)に対する事態の同時性を示す。

(40)

a. Supongo que los quemaría. ⇔ Probablemente los quemé.

b. los quemé: ① **O**(~Prop.[yo quemarlos]&Prop.[yo quemarlos])^{ant.}

当該事態([yo quemarlos])の発話時以前における生起



[yo quemarlos]の発話時以前における生起がある既定の過去時から見た未来時(PF)以前/以後/Ø における生起へ転移

② **PF**(~Prop.[yo quemarlos]&Prop.[yo quemarlos])^{ant.?, pos.?, Ø?}[推量 (可能性)]

スペイン語の「未来」「過去未来」には当該事態の生起(未成立~Prop. から成立 Prop.への変化)を表す機能があるが、「過去未来」が示す **perfectivo** な過去の事態の推量については、その生起が基準時(**PF**)に対して持つ時間関係を「以後(*posterioridad*)」、「以前(*anterioridad*)」、あるいは「言及なし(**Ø**)」のどのように規定すればよいのかがよく分からない。

4. まとめ

● スペイン語過去未来を英語 *would*、仏語条件法現在のそれと比較対照した結果は、次のようにまとめられる。

- ・ 英語 *would*、フランス語条件法現在、スペイン語過去未来は、「反事实用法」、「語気緩和用法」、「過去から見た未来」の用法において一致する。
- ・ 英語 *would* は「過去の習慣・反復」、「過去の意志・固執」を表すという点においてスペイン語過去未来、フランス語条件法現在とは異なる。→ *would* の「過去」から見た未来の用法と「過去の習慣・反復」「過去の意志・固執」の用法をどのように繋げるのかが問題。
- ・ フランス語条件法現在は、「現在の事態」に言及する傾向があるという点において、英語 *would*、スペイン語過去未来と異なる。→フランス語条件法現在の機能とそれが言及可能な時制の関係をどのように考えるのか。

◎ スペイン語過去未来は、「過去の事態の推量」に言及する傾向があるという点において、英語 *would*、フランス語条件法現在とは異なる。→スペイン語の「過去未来」の機能の規定には基準時として P(既定の過去時)が不可欠という意味で、「過去」という時制的特徴を持つものと言える。

参考文献：

Butt, J. & Benjamin, C. (2000): *A New Reference Grammar of Modern Spanish*, London: Arnold.

Escandell Vidal, M.V. (2010): “Futuro y evidencialidad”, *Anuario de Lingüística Hispánica*, XXVI, 9-34.

- Real Academia Española y Asale (2009): *Nueva gramática de la lengua española*, Madrid: Espasa.
- Rodríguez Rosique, S. (2019): *El futuro en español. Tiempo, conocimiento, interacción*, Berlin: Peter Lang.
- Rojo, G. & Veiga, A. (1999): “El tiempo verbal. Los tiempos simples.”, en Bosque, I. & Demonte, V. (eds.) *Gramática descriptiva de la lengua española*, 2867-2934, Madrid: Espasa-Calpe.
- Vatrican, A. (2006): *El condicional en español*, Madrid: ArcoLibros, S.L.
- Yamamura, H. (2021): “Los usos del futuro en español y sus funciones”, 『言語文化論究』 No. 46, 17-31.
- 東郷雄二 (2019): 『フランス文法総まとめ』, 東京: 白水社
- 山田善郎監修 (1995): 『中級スペイン文法』, 東京: 白水社.
- 山村ひろみ (2004): 「futuro と pretérito perfecto simple/pretérito imperfecto の関係-機能的対比の観点から-」, *HISPANICA* 48, 31-47
- 山村ひろみ (2021): 「スペイン語の「未来」と「過去未来」: その機能的類似点と相違点について」, 『言語文化論究』 No. 44, 11-26.